音読

漢文の文章の言葉のひびきを楽しもう
漢文音読プリント１・２の学習の手引き

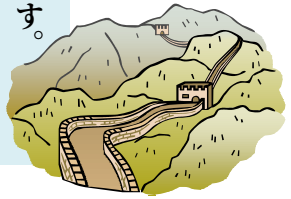
年

名前

漢文音読の手引き

漢詩のひびきに親しもう

漢詩は、中国の伝統的な詩です。ここでは、親しみやすい漢詩を紹介しています。音読すると、漢詩がもつ、**力強くリズミカルな言葉のひびきを味わう**ことができます。



暗唱にちょうせんしよう！

短い言葉で表現され、リズムがよい漢詩は、覚えやすいと思います。何回も声に出して読み、**ぜひ、暗唱にちょうせんしてみてください。**暗唱できたら、評価シートに記入しましょう。

昔の人のものの見方や感じ方を知ろう

詩の内容をかい説した文章をプリントにのせています。
かい説文を読んで、中国の昔の人のものの見方や感じ方などを知りましょう。

『春望』『春暁』　音読プリント

作品について…『春暁』と『春望』は、どちらも、一句の字数が五文字で書かれた詩です。
『春暁』は四句、『春望』は八句から成っています。

◆漢文１のプリント『春暁』（しゅんぎょう）は、中国の詩人孟浩然（もうこうねん　６８９年～７４０年）によって書かれた漢詩です。
音読プリントには、〔原文〕〔読み方〕〔解説〕をのせています。

〔原文〕

春眠不覚暁

〔読み方〕

春眠　暁を覚えず
（しゅんみん　あかつき　おぼ）

〔解説〕

春の眠りは心地よく、いつ夜が明けたか気がつかない。

◆漢文２のプリント『春望』（しゅんぼう）は、中国の詩人杜甫（とほ　７１２年～７７０年）によって書かれた漢詩です。
音読プリントには、１と同じように、〔原文〕〔読み方〕〔かい説〕をのせています。

〔原文〕

国破山河在

〔読み方〕

国破れて　山河在り
（くにやぶ　さんがあ）

〔解説〕

国がみだれ、ほろびてしまっても、山や川は変わりない。

音読

漢詩のリズミカルな言葉のひびきを味わいましょう①

年

名前

漢文1

『春暁（しゅんぎょう）』は、漢詩（かんし）の一つです。漢詩は、中国の国の伝（とう）的な詩です。漢詩がもつ、力強くリズミカルな言葉のひびきを味わいながら読みましょう。

春暁（しゅんぎょう）

孟浩然（もうこうねん）

春眠不覚暁　春眠暁（しゅんみんあかつき）を覚（おぼ）えず
処処聞啼鳥　処処啼鳥（しょしょていちょう）を聞（き）く
夜来風雨声　夜来風雨（やらいふうう）の声（こえ）
花落知多少　花落（はなお）つること知（し）んぬ多少（たしょう）ぞ

〔解説〕

春のねむりは心地よく、いつ夜が明けたか気がつかない。
あちらでもこちらでも、鳥のさえずりが聞こえる。
昨夜は雨や風の音が聞こえた。
花がいったいどれくらい散ったことだろうか。

読んだ回数（○で囲む）	
11	1
12	2
13	3
14	4
15	5
16	6
17	7
18	8
19	9
20	10

	よい姿勢	すらすら読む	漢文の暗唱	意味が言える
私の評価（◎・○・△）				
先生の評価（◎・○・△）				

（◎　とてもよい　　○　よい　　△　もう少し）

音読

漢詩のリズミカルな言葉のひびきを味わいましょう②

年

名前

漢文2

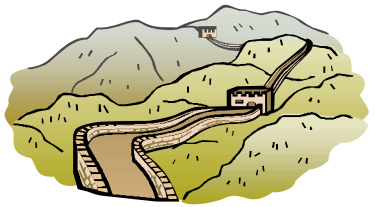
『春望（しゅんぼう）』も、漢詩（かんし）の一つです。音読5で練習した『春暁』と同じように、各行が5つの漢字で成り立っています。訳を読んで、じょう景も思いうかべてみましょう。

春望（しゅんぼう）

杜甫（とほ）

国破山河在
城春草木深
感時花濺泪
恨別鳥驚心
烽火連三月
家書抵万金
白頭掻更短
渾欲不勝簪

国破（くにやぶ）れて　山河在（さんがあ）り
城春（しろはる）にして　草木深（そうもくふか）し
時（とき）に感（かん）じては　花（はな）にも涙（なみだ）を濺（そそ）ぎ
別（わか）れを恨（うら）んでは鳥（とり）にも心を驚（おどろ）かす
峰火（ほうか）　三月（さんげつ）に連（つら）なり
家書（かしょ）　万金（ばんきん）に抵（あ）たる
白頭掻（はくとうか）けば更（さら）に短（みじか）く
渾（す）べて簪（しん）に勝（た）えざらんと欲（ほっ）す



〔解説〕

国がみだれ、ほろびてしまっても、山や川は変わりない。
城（長安のまち）には春が訪れて、草や木が深々と生いしげっている。
時代に心をいためては、花を見てもなみだがこぼれ、
家族との別れをうらんでは、鳥の鳴き声にもおどろく。
戦いののろしは、三か月たってもなお続き、
家族からの便りは　万金にもあたいするほどきちょうである。
頭は白くなり　かみをかきわけると短く、
かんむりをとめるかんざしもさせなくなりそうだ。

読んだ回数（○で囲（かこ）む）																			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

	よい姿勢	すらすら読む	漢文の暗唱	意味が言える
私の評価（◎・○・△）				
先生の評価（◎・○・△）				

（◎　とてもよい　○　よい　△　もう少し）